

授業科目 在宅看護援助論 I	区分・教育内容 統合分野 在宅看護論		
授業担当者 鎌田 百合子 (中通訪問看護ステーション) 堀井 喜世子 (専任教員)	開講時期 中期～後期	単位 1 単位	時間数 30 時間
授業の目的 在宅で健康障害を抱えた人々とその家族への看護展開の方法を学ぶ。 授業の目標 <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護過程のポイントを理解し、その展開方法を学ぶ。 2. 事例を通し、在宅看護展開の実際が理解できる。 3. 他職種との連携を理解し、訪問看護師の役割と機能を学ぶ。 			
授業概要【 担当：鎌田 10 時間 】 疾病や障害を持っている対象者が生活の場の中で「その人らしく生活する」ことを目標とし、訪問看護師として、どのような支援が必要か、また、訪問看護ステーションの特徴や役割を学ぶとともに、少子高齢化社会にむけて、地域包括ケアシステムについての概要と看護職の役割を知る。 授業計画（進め方） <ol style="list-style-type: none"> 1 回目 訪問看護の特徴について 2 回目 在宅ケアを支える訪問看護ステーションについて 3 回目 訪問看護の実践について・訪問看護の記録について 4 回目 事例を用いて訪問看護過程を学ぶ。個人ワークとグループワークと発表 5 回目 地域包括ケアシステムと在宅ケアについて 	授業概要【 担当：奥山 20 時間 】 健康障害を抱えた人々が「健康でその人らしい生活」を維持していくために必要な在宅看護の展開方法を学ぶ。 授業計画（進め方） *1～6 回目は、事例別看護過程の展開 (グループワーク) <ol style="list-style-type: none"> 1・2 回目 療養者の全体像を理解する 3 回目 グループ発表 4・5 回目 関連図作成 短期目標の設定 6 回目 看護計画立案 7 回目 要介護高齢者への在宅看護 8 回目 認知症療養者への在宅看護 9 回目 ターミナル期療養者への在宅看護 10 回目 難病療養者への在宅看護 		
テキスト ナーシンググラフィカ 地域療養を支えるケア メディカ出版			
指定図書・参考書 角田直枝編 よくわかる在宅看護 学研			
評価の方法 鎌田担当 30% 筆記試験、授業態度（個人ワーク・グループワークの参加姿勢） 堀井担当 70% 筆記試験、課題レポート、授業参加姿勢			